

競技をする意味とは何か  
 —負傷体験を有する学生アスリートの語りから—  
 竹上範子（競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース）  
 指導教員 豊田 則成

キーワード：競技, 怪我, 意味

1. 緒言

本研究では「負傷体験を有する学生アスリートは競技をする意味をどのように語るのか」というリサーチクエスチョン(Research Question：以下RQと略す)を設定し,質的にアプローチを行った.そこでは,負傷体験を有する学生アスリートの語りから,発展継承可能で有益な仮説的知見を導き出すことを目的とした.

2. 研究方法

インフォーマント(Informant：情報提供者.以下Inf.と略す)は,競技中の負傷体験を有する本学の学生アスリート7名である.1人あたり約1時間程度の半構造化インタビューを実施した.分析方法は質的研究法のグラウンデッド・セオリー・アプローチ(Grounded Theory Approach：以下GTA)を用いて行った.

3. 結果と考察

本研究は,「負傷体験を有する学生アスリートは競技をする意味をどのように語るのか」というRQの下,質的にアプローチを行った.その結果,「怪我をすることで思うように動けない一方,競技者としての自分にこだわる.孤独を感じながらも,何度も自分を見つめ直し,自分と向き合うことを繰り返すことで,今までの自分から一步を踏み出すことが出来,自分らしく前に進んでいくプロセスとして語る」という仮説的知見が導き出した.(Fig.1:負傷体験を通して自分らしさを築いていくプロセス)

4. まとめ

すなわち,負傷体験を有する学生アスリートは,競技をすることで自分と向き合い,自分らしさを築きあげていくと言える.

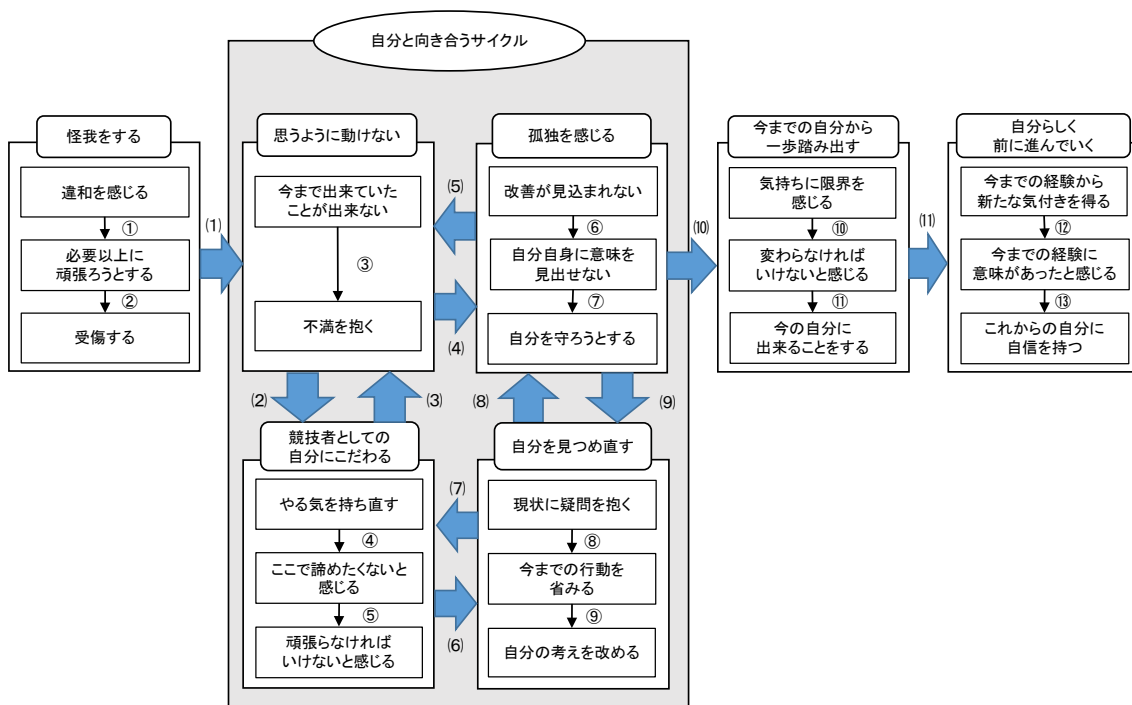


Fig.1:負傷体験を通して自分らしさを築いていくプロセス